



一次の文章を読んで後の問いに答えなさい。答えは黄色の解答用紙に書きなさい。字数の指定のある問題は句読点も一字と数えます。

二〇一八年の春に子どもが生まれた。良いチャンスなので近所の写真館に行つて家族写真を撮ってもらった。以前から写真館が気になっていたのだ。「写真館写真」と題して、全国の写真館のショーウインドウに飾つてある写真を撮影したりもしている。日本中にはまだたくさんの写真館が存在していることを知っておどろいている。

スマートフォンのカメラの性能が**カクダン**に良くなった現在、写真館に存在意義はあるのだろうか、などと思つていたが、予約当日に店に行つてみたら順番待ちのお客さんがたくさんいる繁盛ぶり。そしてできあがつた写真を見て、ぼくは「子どもが生まれると、とたんに『家族』に見えるものだな」と「A」思つた。

今回の撮影は、お宮参りに合わせて行なつた。生後一ヶ月前後に催されるこの**フウシユウ**では、赤ん坊に独特の着物を着せる。写真館ではこの衣装を貸し出すサービスをやっていて、ぼくも含めて多くのお客さんがそれを目当てに撮影を依頼するようだ。調べてみてわかつたのは、現在写真館が提供しているのが、撮影技術というよりは衣装を含めた舞台設定であるということ。たとえば全国に五〇〇以上の店舗を持つ写真館チェーン「スタジオアリス」は「スタジオアリスの衣装は業界最大数の圧倒的ラインアップ!」と謳っている。撮影メニューには、お宮参り、七五三、バースデー、入学祝いなどに合わせて衣装を着飾つた写真が並ぶ。

中でも興味深いのは、これら**フシメイ**イベントとは別にある「デイズニー・マーベルキャラクター撮影」「ディック・ブルーナの世界」というメニューだ。エルサの衣装に身を包んだ子どもが、合成された『アナと雪の女王』の背景の前でポーズをとっている写真などが並んでいる。さらに「キュートなベビー大集合! 着ぐるみカーニバル」という期間限定の撮影メニューもある。生後三ヶ月から一歳一ヶ月までの子どもを対象にしたこのサービスでは、犬やニワトリ、シロクマといった動物を「注1」モチーフにした着ぐるみを着た赤ん坊の撮影が行われるとのこと。

考えてみれば「写真館」という名称は奇妙だ。なぜ「館」なのか。「B」舞台設定こそが撮影サービスの要だったからではないか。撮られる人が座るアンティーク調の椅子など、いい雰囲気調度が並べられた空間は確かに貴人の館を「注2」彷彿とさせる。大きなホリゾン（スタジオにある背景の布や壁のこと）や照明が入る建物は、**①**に館レベルになるということもあるだろう。いずれにせよ、写真館で撮られる写真において重要なのは、今も昔も設定だ。そういう意味で「スタジオアリス」は「a 正統派の写真館である」と言える。撮影技術は、ここで提供されるサービスの一要素にすぎない。

そもそも家族写真は「conversation piece」と呼ばれる、一八世紀にイギリスを中心に流行した絵画のスタイルを「注3」踏襲しているといわれる。これは家族やその友人たちを描いた集団形式の肖像画で、この時代に**b 台頭した「注4」ブルジョワ**に人気だった。ウィリアム・ホガースがその代表的な画家だ。画面に人物だけでなく、豪華な邸宅とその室内の家具調度、絵画や彫刻、馬やペットなどの所

有物がふんだんに盛り込まれているのが特徴である。自分たちの上品な暮らしぶりを見せびらかすと同時に、家族の幸福と絆を証明したわけだ。

素敵な舞台設定と、決められたポーズと表情。客はひたすら形式からはみ出ないようにする。ぼくが体験した今回の撮影でも、ここまかにポーズが指示された。**1 演出されたしつらえの中に身を置く**ことが重要で、個人の**姿形**はあまり問題ではないように感じた。一九世紀にパリで写真館を開いたナダールは、自分の写真を見て怒り狂う客や、他人の写真を自分のだと思つて満足する客が少なくなつたと書き残している。つまり、**I**ということだ。そして人の顔はひとつずつ異なるという、こんにち当たり前だと思われている考えも、じつはナダールをはじめとした近代の人々が発見したものだった。極端な言い方をすれば、家族写真においては、写っている人物が誰かすら問題ではないのかもしれない。どう見ても子どもではなく、横に立っているミッキーのほうが主役に見えるスタジオアリスの「デイズニー・マーベルキャラクター撮影」の作例写真を見て、**2 そんなことを思つた。**

写真館の本質は **II** だった。だからスマートフォンのカメラの性能がどれだけ良くなつても、写真館のビジネスはなくならない。例えば「インスタ映え」もいわば舞台設定だ。あれは観光地や商業施設の「写真館化」と言える。

日本の家族写真は幕末から明治のはじめに撮られるようになった。つまり、写真がもたらされてすぐに始まっていることになる。川村邦光は、日本における最初期の写真家である上野彦馬が一八六〇年代前半に撮影した夫婦の写真に対して興味深い分析を行なっている。川村は、椅子に腰掛けた妻と、そのかたわらのやや後方に立ち、背もたれに手を置いた夫というこの写真の構図が、当時の欧米の家族写真のスタイルを踏襲したものであることを指摘する。そして、「夫が妻をいたわり、庇護するという構図を作り上げ、**注5 貞淑**のような妻のポーズ、堂々とした夫のポーズによって、彦馬自身の、またこの夫妻の男女の**注6**ジェンダー観を表出している。それは、儒教的な**注7 男尊女卑**といったジェンダー序列ではなく、キリスト教的な家長制の色彩を濃厚にした、西洋ふうの**②**な夫婦像、もしくは近代家族像であると一応いえる」と述べている。

注8三章で肉親の霊との家族写真を撮ることと有名だった写真館のオーナー、ウィリアム・マムラーについて触れた。おもしろいのは彼が撮つた心霊家族写真の中で最も有名な、メアリー・トッド・リンカーンとその亡き夫エイブラハム・リンカーンの夫婦の写真だ。当時存命の妻は椅子に腰掛け、夫である元大統領の霊がその背後に立って夫人の肩に手を置き、じつと妻を見つめている。これは上野が一八六〇年代に撮つた前述の写真とよく似た構図だ。ほかの心霊写真家が撮つた写真にも**3 同様の構図**がしばしば見られ、当時の夫婦・家族写真がいかにこのスタイルを守っていたかを示している。霊ですらそのルールに従うのだ。

このような夫を長とした構図は、夫婦ふたりの写真に限らず、子



どもや夫・妻の両親を含んだ家族写真にも見られる。上野自身が妻

と母、妹、義母および子どもたちの三代で撮影した家族写真があるが、そこでは懐手の上野が女性と子どもに囲まれて、中央に威厳をもって立っている。川村は上野が「写真撮影を通じて、西洋近代家族のスタイル（様式）をいち早く摂取していた」とし、それが「近代日本では、まずはフォルム（形式）がマトリックス（基盤・類型）として導入され、後になってイデア（理念）やノルム（規範）が充当され」たことの現れであると論じている。すでにある家族「注」倫理を写真が写し取るのではなく、写真こそが家族像をつくった、とまでは断言できないが、少なくとも写真スタイルの定着と併走して家族倫理が整えられていったことは間違いないさそうだ。4 ぼくが写真を見て「家族に見える」と思ったのは、そこに子どもが写っているからというよりは、写真館で三人の写真を撮ったということそのものによるかもしれない。おそらく家族写真は、事後的にそこに家族を

（大山顕『新写真論』）

【注】

- 1 モチーフ・・・主題
- 2 彷彿とさせる・・・ありありとイメージを思い浮かべられること。
- 3 踏襲・・・これまでのやり方を受けつぐこと。
- 4 ブルジョワジー・・・資本家や金持ちの階級。
- 5 貞淑・・・夫に対してしとやかで従順なようす。
- 6 ジェンダー観・・・男女の性別への考え。
- 7 男尊女卑・・・女性は男性に従うものだという考え。
- 8 三章で・・・問題文の典拠である本『新写真論』の中で、この問題文より前にある章の内容を指す。
- 9 倫理・・・道徳観や善悪の基準。

問一 本文中の太字のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問二 空らん「A」「B」に入る語としてもつともよくあてはまるものをそれぞれ次のア～カの中から選び記号で答えなさい。

ア しばしば イ しみじみ ウ そもそも エ ぼちぼち オ ますます カ ゆくゆく

問三 空らん①②③に入る語としてもつともよくあてはまるものをそれぞれ次のア～カの中から選び記号で答えなさい。

ア 圧倒的 イ 印象的 ウ 具体的 エ 根本的 オ 典型的 カ 必然的

問四 a 正統 b 台頭した の意味としてもつともふさわしいものをそれぞれ次のア～エの中から選び記号で答えなさい。

a・・・ア 正しい支配 イ 正しいつながり エ 正しい答え
b・・・ア 勢いをのびした イ 数を増やした ウ 群を抜いた エ 民を治めた

問五 1 演出されたしつらえの中に身を置くことが重要で とありますが、なぜ「ぼく」にとってそれが重要なのですか。もつともよくあてはまるものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア いい雰囲気調度が並べられた空間に身を置くことで、家族も自分の所有物として記録できるから。
イ インスタグラムなどのSNSに取り上げること、自分たち家族の暮らしをじまんでできるから。
ウ デイズニーやディック・ブルーナのキャラクターに囲まれることで、家族みんなで非日常的な体験ができるから。
エ 写真館の提供する決められた型にはめられることで、幸せな家族の姿が完成するから。

問六 空らん I II に入るのものもつともよくあてはまるものをそれぞれ次のア～エの中から選び記号で答えなさい。

I ア 人は自分の顔を意外と気にしていない イ 人は自分の顔を正確に知らない
ウ 人は自分の顔を特別なものだと思っている エ 人は自分の顔を撮られることを好まない

II ア 家族の歴史を刻んだ記録 イ 高級な機材と撮影技術 ウ 非日常的な楽しい体験 エ 優秀な舞台設定サービス

問七 2 そんなこと とありますが、どんなことですか。解答らんに合うように本文中から三十字以内でさがし、ぬき出して答えなさい。

（三十字以内）
ということ。

問八 3 同様の構図 とは、つまりどのような夫婦の関係を表した構図ですか。本文中から二十字以内でさがし、ぬき出して答えなさい。

問九 4 ぼくが写真を見て「家族に見える」と思ったのは、写真館で三人の写真を撮ったということそのものによるかもしれないとありますが、「ぼく」が、写真館で撮った家族写真を見て「家族に見える」と思ったのは、それがどのような写真だったからですか。本文全体の内容をふまえて、二点挙げて説明しなさい。

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。答えは、問十以外は黄色の解答用紙に書きなさい。字数の指定のある問題は句読点も一字と数えます。

幼いころ、私の家のとなりには広い空き地があった。夏には雑草が生いしげり、キチキチと鳴くバッタがとび、夕方にはギンヤンマが蚊を求めて低く旋回した。

現在のように、空き地という空き地に家が建ってしまうといった時代ではない。原っぱはながいこと原っぱのまま、夕ぐれ、人気がないときには怖ろしくさえた。実際、私たちはここで人魂を見た。空き地のとなりは墓地であつたから、人魂くらいにいたのかもしれない。子どもたちの誰かが悲鳴をあげ、「ヒトダマだ！」と叫び、ころぶように逃げだした。みんなころぶように逃げた。それどころか、本当にころんでしまい、膝小僧をすりむいた。安全なところまで逃げてから、私たちはヒトダマがどんなものであつたかを議論した。一人は青白かつたと言った。一人はイナビカリのようだったと言った。もう一人はうす桃色だと言った。どうもみんなの話を総合するとインチキくさかつた。

しかし私たちは、原っぱの隅で、女の髪の毛を発掘した。私たちは、おぞましい殺人事件を考え、**1** 背筋が《 》なつた。いま考えてみると、どうやらその髪の毛はシュロの幹に生える毛であつたようだ。しかし原っぱには、人さらいまで出沒した。彼らは大きな籠を背おい、原っぱに捨ててある空かなぞを拾っていた。それは見せかけで、隙があると幼い子どもをつかまえ、籠に入れてもつてかえり、外国へ高く売りはらうのである。少なくとも私たちはそう信じていた。

多くの子どもたちと同様、私はここで最初の昆虫採集をした。手でもつてバッタをつかまえ、次には粗末な網でトンボを追いかけた。もちろん昆虫採集なんて言葉は知らなかつた。

ところが、この原っぱに一人の中学生が出現した。彼は立派な捕虫網をもち、肩から桐でできている立派な採集箱をさげていた。それを開けてみせると、中にはふつうの赤トンボばかりが三十四ほどはいつていた。私は彼の貧弱な採集物をあわれんだ。なぜなら、私の虫籠の中には、もっと大きくてもっと真紅のトンボ、いま考えてみればショウジョウトンボがはいつていたからだ。

中学生はショウジョウトンボを見、もしそれをくれたら、こっちの赤トンボを十四やろうと言った。私はイヤだと言った。中学生は二十四に値あげをした。私はことわつた。ついに相手は全部の赤トンボをあげると申しでた。

「赤トンボはいらないけど」

と私は言った。

「その注射器をいっぺん使わしてくれない？」

採集箱の中にはピンセットだの三角紙だの注射器だのがはいつていたのである。中学生は承知をした。私は生きているバッタにアルコールを注射し、それが肢をふるわせて死んでゆくのおどろいて眺め、その代償として**ア**ショウジョウトンボをまきあげられた。

a 私の血の中には「**注**」残忍な血がまじっていたにちがいない、私はそれをおもしろいと思った。私の家は医者だったので、私はまもなく古い注射器をもらいうけ、それでもつてずいぶんたさんの虫を殺した。いま私はそれほど残忍ではない。それでも当時はおもし

ろかつた。アリにまで注射をした。私はずいぶんたさんの虫に注射をしたので、注射にはすっかりあきてしまったようだ。その後私は医者となり、人間に注射をしなければならなくなったが、これは次第に私の性分にあわなくなりつつある。私はあまりにも虫に注射をしすぎたのだ。

小学校の四年のころ、夏休みの宿題に**イ**昆虫の標本をつくることが命じられた。私ははりきつて虫をあつめた。はじめて昆虫採集の道具を買ってもらい、はじめて蝶を「**展**」展翅した。そして自分の三箱ばかりの標本がかなりすぐれたものであることを疑わなかつた。ところが夏休みが終わってみると、みんなの標本のほうがもつとよかつた。なかには博物館に並べても恥ずかしくない標本があつた。疑いもなくお父さんやお兄さんに手伝ってもらつたのだろう。標本にはちゃんと名札までついていた。これはけしからぬことであつた。私だつてシオカラトンボとかモンシロチョウくらいの名前は知つていたが、見たことがない虫にまでみんな名前がついていようとは思わなかつた。そういう名前が虫の写真と共にのつている本『昆虫図鑑』という書物がこの世にあることを私は知つた。

2 私の血の中にはくやしがる性質の血が多分にながれていたにちがいない。私はもつと立派な標本をつくり、ちゃんと名札をつけてやろうと考えた。ところが私の父は息子が虫などを集めるのを好まなかつた。勉強の邪魔になるというのだ。おどろいたことに、私はそのころ勉強ができた。それでも**オウボウ**な父はもつと勉強だけをしろと言つた。昆虫図鑑だつて買つてくれはしなかつた。

私は自分の貯金箱をとりだした。『昆虫図鑑』は安くなく、平山修二郎著『原色千種昆虫図譜』というのは三円三十銭だった。私の血の中にはケチな性分が多分にまじっていたにちがいない。私の貯金箱にはそれ以上の銀貨や銅貨がはいつていたにもかかわらず、私は思いつて『図鑑』を買う決心がつかなかつた。それで、私がようやくそれを買い求めたのは、それから丸一年以上たつてのことだった。

私は本屋へはいつてゆき、並んでいる『原色千種昆虫図譜』を手にとつたが、せめてできるだけきれいな本を買つてゆこうと考えた。**3** カバーが汚れている奴なんか買いたくなかつた。横のほうに変わったカバーをかけた本があつた。それにも同じく『原色千種昆虫図譜』と印刷してあるので、私はこちらのほうが新版なのだと思い、夢中でそれを買求めた。

家へもどりワクワクしながら本をひらいてみると、どうも様子がおかしかつた。たしかに美しい昆虫の写真がずらりと並んでいるのだが、**ア**見なれた虫の姿がほとんどない。モンシロチョウやシオカラトンボさえも載っていないかつた。説明をよんでみると、たいいてい台湾産や朝鮮産の昆虫なのだ。これではあまり役に立たない。私は本をひっくりかえし、ようやくその表題が『原色千種続昆虫図譜』となつてゐるのに気がついた。あわてて続編のほうを買つてしまったのだ。この打撃は大きかつた。正篇を買いなおすことはとてもできなかった。私は「運がなかつたのだ」と思い、**4** 私の昆虫熱は半分がたさめた。

5 幸か不幸か、それからほどなく私は腎臓病にかかった。かなり重いらしく半年間寝ていなければならなかった。腎臓病という病氣はウ何にも食べられない。蛋白も塩気もいけないのだ。これは子どもの身にとっては大変なことである。カレーライスのおいにする日には涙がこぼれた。私の血の中には意地汚い血はあまりながれていなかったにもかかわらず、それから私はイジキタナクになった。みんながさすがに気の毒がつて、『昆虫図譜』の正篇を買ってくれた。

退屈さが私をいつそうその本に惹きつけた。私はくりかえしくりかえし、表紙がすりきれるまで『昆虫図譜』をながめた。原色写真の形態をあらかた見覚えてしまった。名前もおぼえた。さらにラテン語の学名までをかなり暗記した。私はその横文字をよむことができなかったが、大人がよんでくれた。それで私は、クロアゲハはパピリオ・プロテノール・デメトリウスといい、カブトムシはアロミリナ・デスコトムスということ覚えてた。b それはエ何が何やらわからないだけにいつそうおもしろかった。学問というものだってみんな初めはそんなものだ。何が何やらわからないから人々はオヤオヤと思う。ところが、少したつて少しわかったような気がするともう飽きてしまう。いつまでたつても何が何やらわからないと、これもやっ

ぱり飽きてしまう。永久に何が何やらわからないのが一番おもしろいことなのに。

何月か『昆虫図譜』と寝ていたおかげで、私は虫の名を覚えた。なにかを覚えるということはそれほど大したことではない。それでも、ウようやく起きられるようになって縁側まで出てみたとき、私はその効果を知った。もう春であった。その春のヨウコウの中に、一匹の蛇がエ宙からつりさげられたようにじつと浮かんできた。綿毛のかたまりのようなかわいらしい蛇である。一目見て私にはその名称がわかった。ビロウドツリアブ。彼女とははじめて出会ったはずなのに、6 私はずっと以前からの旧知のような気がした。むこうではそんなふうに思わなかったらしく、アツというまにどこかへ消えてしまった。しかし7 私にとっては、自分の住んでいる世界がいささかなりとも広くなったように感じられたのである。

(北杜夫『どくとるマンボウ昆虫記』)

【注】

- 1 残忍・・・残酷なことを平気でするようす。
- 2 展翅・・・標本にするために羽を広げること。

問一 本文中の太字のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問二 本文中のられ ない について、それぞれア エの中から働きの異なるものを一つ選び記号で答えなさい。

- られ ア ショウジョウトンボをまきあげられた イ 昆虫の標本をつくることが命じられた
ウ ようやく起きられるようになって エ 宙からつりさげられたように

- ない ア 見なれた虫の姿がほとんどない イ 役に立たない
ウ 何にも食べられない エ 何が何やらわからない

問三 1 背筋が《 》になったの《 》にもっともよくあてはまるものを次のア エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 痛く イ 熱く ウ 寒く エ かく

問四 a それ b それ の指す内容を、本文中の語句を用いてそれぞれ二十五字以内で書きなさい。

問五 2 私の血の中にはくやしがる性質の血が多分にながれていた とありますが、何がくやしかったのですか。もっともよくあてはまるものを次のア エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 自己流で作った標本が、みんなとくらべるとはずかしいぐらい子どもっぽくてつまんなものだったということ。
イ 私の父は息子が昆虫採集をするのを好まないのに、みんなは父や兄に標本づくりを応援され手伝ってもらっていたこと。
ウ 私のほうが小さいころから昆虫採集に親しんでいたのに、夏休みの宿題のせいでみんなも昆虫採集をするようになったこと。
エ 私は自力で標本を完成させたのに、みんなは父や兄に手伝ってもらい、『昆虫図鑑』を使って正式な名前の名札をつけていたこと。

問六 3 カバーが汚れている奴なんか買いたくなかった とありますが、それはなぜですか。もっともよくあてはまるものを次のア エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア ずっとあこがれていた『図鑑』の価値をそこなわないようにしたかったから。
イ みんながすでに持っているものより見おとりするようなものはいやだったから。
ウ ケチな自分が高い本を貯金で買うからにはより良いものが欲しかったから。
エ 入院して病院のベッドで読むことになるかもしれないと思ったから。

問七 4 私の昆虫熱は半分がたぎめたのはなぜですか。もつともよくあてはまるものを次のア～エの中から一つ選り記号で答えなさい。

ア せっかく父の教育方針に反して『昆虫図譜』を手に入れたのに、みんなは昆虫採集にあきてしまっていたから。

イ 続篇にのっている海外の昆虫は生き生きとしてひきつけられたが、私は海外へ行って昆虫採集をすることができないから。

ウ、続篇にのっている海外の昆虫はみんな見た目が派手だったり大きかったりで、昆虫を気味が悪いものと思うようになったから。

エ 見慣れた昆虫の名を『昆虫図譜』の正篇で知ったのに、まちがえて自分の目的に合わない続篇を買ってしまったから。

問八 5 幸か不幸か、それからほどなく私は腎臓病にかかったとありますが、「腎臓病にかかった」ことでどのようなことになったことを「幸」

「不幸」と言っているのですか。それぞれ文中の語句を用いて説明しなさい。

問九 6 私はずっと以前からの旧知のような気がしたとはどういうことですか。もつともよくあてはまるものを次のア～エの中から一つ

選り記号で答えなさい。

ア これまでは昆虫採集や標本づくりに熱を上げ、虫に注射をすることに楽しみを見出していたが、数か月間腎臓病で寝ていたおかげで虫に対して以前より深い知識が身についたということ。

イ 腎臓病にかかり制限される中で『昆虫図譜』とともに寝るような生活をしていたため、実際の蛇を目にしたとき、前からの知り合いのような気持ちになったということ。

ウ 腎臓病にかかり昆虫採集やふつうの食事制限されている中、厳しい父が『昆虫図譜』を買ってくれたため、春に退院して初めて出合った蛇を見て家族とのつながりを意識したということ。

エ 腎臓病にかかり入院している間に感性がずくなくなり、綿毛のかたまりのような蛇を見たとき、かつて原っぱの隅で発掘した女の髪の毛を連想し、その女の表情をありありと思い出したということ。

問十 7 私にとっては、自分の住んでいる世界がいささかなりとも広くなったように感じられたとありますが、この時の「私」が経験し

たことと同じように、「自分の住んでいる世界」が広がったと感じた経験を思い出して具体的に書きなさい。自分の経験が思い当たらない場合は適切な例を考えて書くこと。答えは左の解答らん書きなさい。

--



問一

カクダン

フウシュウ

フシメ

姿形

問二

A

B

問三

①

②

問四

a

b

問五

問六

I

II

問七

といふこと。

問八

問九

二問一

オウボウ

ヨウコウ

綿毛

問二

られ

ない

問三

問四

b

a

問五

問六

問七

問八

不幸

幸

問九

問十 答えは

国語I五

の解答らんに書きなさい。